

第6次瀬戸市総合計画

(将来像)  
住みたいまち 誇れるまち  
新しいせと

(都市像①)  
活力ある地域経済と豊かな暮らしを実現できるまち  
(1)地域産業の振興と人材の活躍促進  
(2)年齢や性別にかかわらず、働くことや起業・創業に挑戦できるまちづくり  
(3)地域経済の活性化につながる地域資源を活かしたシティプロモーションの展開  
(4)誰もがいきいきと、安心して働くことができるまちづくり  
(5)市民生活の利便性を高め、企業活動の活性化につながる都市基盤の整備

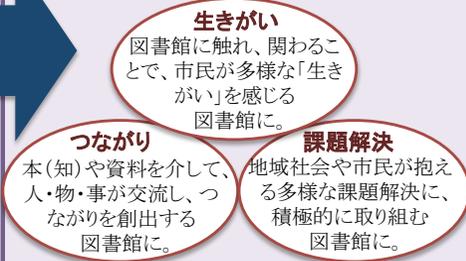
(都市像②)  
安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち  
(1)ライフステージに応じた切れ目のない子ども・子育ての支援  
(2)瀬戸で学び、瀬戸で育ててよかったと思える教育の実現  
(3)多世代が子育てに関わるのできるまちづくり  
(4)子育て世代に向けた魅力あふれる子育て情報の発信と定住の促進  
(5)都市基盤整備による居住環境の魅力向上と未来に向けた良好な環境の継承

(都市像③)  
地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち  
(1)誰もがいきいきと、健康に暮らすことができるまちづくり  
(2)高齢者が生きがいを持って活躍し、支えあいにより、安心して暮らせるまちづくり  
(3)誰もが自立し、地域で支え合いながら生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり  
(4)地域の生活環境の向上と安全・安心な地域づくり  
(5)誰もが生涯にわたって学び、郷土に対する誇りと愛着を深める豊かな地域づくり

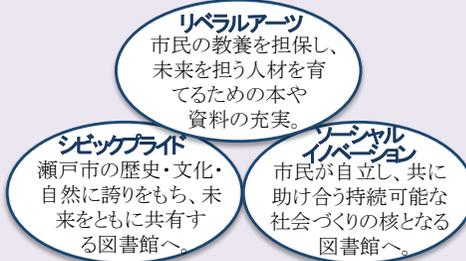
第2次瀬戸市教育アクションプラン  
(目指す姿)  
市民がくつろぎの空間の中で、自ら学ぶことができ、暮らしに役立つ情報を楽しむ、市民の学びと交流の場となっている。  
※赤字のキーワードの実現に向け、「知」の集積と「人材」交流の場として、図書館の在り方を大胆に改革する。

瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の3つの柱

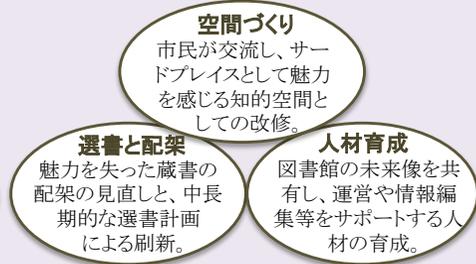
瀬戸市立図書館が目指す3つの未来像



未来像に基づく図書館改革の3つの方向性



具体的なアクションの3つのポイント



瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の骨子

それぞれの機能と役割を明確化  
蔵書と資料の棲み分けによる人の移動と交流を促す

本館

- ・本を探す図書館から本と出合う図書館へ(蔵書・配架調整)
- ・小説類・児童書・実用書偏重から蔵書の重視へ
- ・滞在型の図書館へ(ゾーニングと調度・デザインの見直し)
- ・中長期的な選書計画により魅力ある蔵書構成に刷新
- ・Web展開やメディア発信など情報コンテンツ編集力を高める
- ・空間づくりやメディア展開、蔵書再編集の支援人材育成

自動貸出機の導入によるカウンター業務の効率化

満杯の本館の蔵書の還流(とくに小説・児童書の分散化)地域コンテンツのアーカイブ化ネットワークの構築

読書のためだけの図書館から

瀬戸市の未来を拓く図書館へ

情報ライブラリー

- ・中高生のキャリア教育と社会人の生涯学習に特化
- ・立地の特性によりサードプレイス機能の重視
- ・小説や児童書は置かず教養とスキルを磨く蔵書を重視
- ・課題解決型レファレンス機能の強化(カウンター業務見直し)
- ・「パルティせと」の機能との連携強化
- 学びキャンパスせと(生涯学習) 瀬戸まちの活動センター(市民活動) 大学コンソーシアムせと(リカレント教育)

地域図書館

- ・蔵書・配架を見直し魅力ある本棚を再編集
- ・居心地のよい空間づくりで地域サロン化へ
- ・サロンの3拍子もてなし/ふるまい/しつらいを担う人材育成
- ・親子での利用、子どもと年寄りなど世代間交流の仕掛け
- ・各地域ごとに特化した蔵書の特徴を工夫した企画棚の充実
- ・各地域ごとの郷土資料や語り部の言葉のアーカイブ化

通勤・通学拠点の図書館と生活圏の図書館の役割分担

瀬戸市立図書館の利活用計画実現のための整備計画

ツール

- ・蔵書管理システムを見直し、自由な本棚編集を実現
- ・調度・内装・照明の刷新で魅力ある空間づくり
- ・Webおよび紙メディアの充実による情報力強化
- ・電子書籍の効果的な導入と利用促進計画
- ・人・事・物の交流を促すツールの工夫

ルール

- ・選書ルールと調達プロセスの見直し
- ・リクエスト対応等の選書ルールの見直し
- ・館内ルールから図書館条例まで見直し
- 瀬戸市の未来を拓く図書館への改革のための全てのルールを見直して明示化する

ロール

- ・図書館・書店・その他民間活力の関係再編集
- ・カウンター業務の見直しと再設定
- ・市民サポーター組織の見直しと再構築
- ・5ヶ年計画の実現に向けた外部アドバイザー兼ディレクター制を導入